

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会	
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号	
訪問調査日	令和 3 年 3 月 12 日	

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数 6名		

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名	グループホーム はなみずき
(ユニット名)	1 (A)
記入者(管理者)	
氏 名	山本良広
自己評価作成日	令和 3年 2月 27日

**ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

事業所理念	前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果	今回、外部評価で確認した事業所の特徴
<p>「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います」 ・私たちは、その人らしさを大切に、今までの・これからの持てる力に寄り添います。 ・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所 ・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。「いつも笑い声と笑顔があふれる」そんな場所を目指します</p>	<p>①時に事故防止等のため不適切な言葉遣いがあるため、職員全員で不適切ケアの防止に努める。⇒高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。</p> <p>②利用者に対して[やりたいことシート]を配布・集計して、ご家族と相談して実現できるものは積極的に実施する。⇒遠足、外食、ドライブ等外出を伴う希望が多くコロナ禍で中断している。</p> <p>③新型コロナウイルス感染防止対策の国の動向を注視しながら、家族面会や各種交流の時期を見極める。居室の締め切ったサッシ窓越し面会は可、皆でグループホーム裏の菜園にて野菜や花を栽培し採れたての旬を味わっています。</p> <p>④家族会のメンバーに評価結果に対するモニター依頼し、検討していただく。⇒ご家族に対してワムネット公表と目標達成計画等を配布してご意見を求めました。</p>	<p>利用者や職員に信頼されている管理者を中心に、日々安心できる支援が展開されている。事業所の理念を職員は念頭に置き、利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、「らしさシート」を活用しながら介護計画を作成しており、職員の気づきや工夫、アイデアを大切に取り入れながら、利用者に笑顔が溢れる心地よい生活が送れるよう取り組んでいる。常に利用者の視点を大切にするとともに、人生の先輩として敬い尊ぶ心で職員は接している。現在はコロナ禍のため、面会や外出などの制限が多い中、リモート機能を活用した面会や菜園での野菜栽培など、可能な範囲で要望に応えられるよう努めている。また、母体が医療法人で、事業所では医師や看護師などの連携が取れており、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所は開設して4年余りであるが、すでに数名の看取り経験を重ね、職員間のより一層団結力が生まれ、職員の自信やレベルアップにもつながっている。運営推進会議での意見や提案も取り入れながら、法人・事業所として、地域に頼られるケア拠点となっている。</p>

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1 思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様の言動に傾聴するよう努めている。利用者様の思いを大切に毎月のカンファレンスや必要時に話し合いを行ったり、定期的にモニタリングを行い生活についての希望・意思を話し合っている。	◎	/	◎		職員は、利用者に「こんなことできたらいいな」「やりたいこと」などの希望調査を行い、思いや意向を確認している。コロナ禍の異常事態の中でも、事業所として利用者にとって実現できることは、新しく生活の中に取り入れていけるよう全力で取り組んでいる。
	b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の表情や行動の観察に努めている。毎月のスタッフ会や申し送りの際に利用者さんにとどけどのような事をすれば一番よいか又、一人一人のケア方法について話し合っている。	/	/	/	/	
	c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ライン回線を使ったビデオ通話面会時や家族へ電話をした時等に近況を報告し利用者様の思いを共有するよう努めている。	/	/	/	/	
	d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	希望や訴えがある時は本人の言葉で記録に残すようにしているが全てを記録できているわけではない。スタッフ間での申し送りで周知できるように努めている。	/	/	/	/	
	e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを中心に検討するよう心がけているが、時に家族の思いやスタッフの思いが強くなる時がある事は否定できない。	/	/	/	/	
2 これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	「らしさシート」を活用し今までの生活の把握に努めている。本人のこだわりに関してはその都度面会に来られた家族や親族に尋ね、こだわる理由を教えて頂いたり、生活スタイルについて話を聞くよう努めている。	/	/	/	○	「らしさシート」には、「生い立ち・出身地・家族構成・性格・生活習慣・こだわり・馴染み・趣味・特技・これまでの病気」など項目があり、職員は利用者や家族から聞くよう努めている。ガラス越しやリモート機能を活用した家族との面会時や電話連絡時にも、職員は利用者の暮らし方などを聞き取り、記録して利用者の現状把握に努めている。
	b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	一人一人の会話やレクリエーション等を通じ、細かい作業が苦手な方や、考える事が苦手な方等、出来る事や苦手な事への把握に努めている。	/	/	/	/	
	c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の声掛けやコミュニケーションの中から行動を観察し、利用者様が好む落ち着く場所やその状態の把握に努めている。	/	/	/	/	
	d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	注意深く本人に寄り添い把握しようと声をかけている。又、スタッフ間でも話し合いを行い要因の把握に努めている。	/	/	/	/	
	e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員は利用者様一人一人の出来る事や苦手な事を把握しており、毎朝の申し送りで日々の変化の確認に努めている。	/	/	/	/	
3 チームで行うアクセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人・家族の要望や直接の訴え・スタッフ会・申し送り等、本人視点で話し合いを行っている。	/	/	/	○	日々の支援の中で、常に職員は利用者一人ひとりを観察し、記録を残すよう努めている。把握した内容は、月1回スタッフ会やカンファレンス等を活用して職員間で話し合い、利用者本人の視点で生活の中にサービス内容が盛り込んでいくよう検討している。
	b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	月に1度のスタッフ会やカンファレンス又は、随時必要な時に検討出来ている。	/	/	/	/	
	c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスの話し合いをもとに課題の提案を行い検討。検討した内容を実践できていないところについて再検討するようしている。	/	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いいや意向を反映できている。スタッフ全員で話し合いを行い周知できるように努めている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人と話し何を求めるかを確認し、本人・家族の望む意見やアイデアを整理し、スタッフの意見も反映しながら作成している。	○	/	○	利用者一人ひとりの「らしさシート」と「こんなことできたらいいな」「やりたいこと」などの希望調査を参考にして、日々変わる利用者の思いのほか、家族の意見や職員のアイデアと意見を盛り込みながら、介護計画を作成している。利用者ごとの担当職員は1年ごとに交代し、マンネリ化ならないとともに、新たな気づきなども大切にすることとしている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人が使用していたものを持参していただく等環境に配慮しながら、看護師や理学療法士の協力を得て、福祉用具等の利用で本人のベースで過ごせる内容となっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容となっている。	△	ライン回線を使ったビデオ通話面会で家族の協力は盛り込まれている。地域行事の時は地域の顔見知りの方たちが席を用意してくれる等協力体制が取れている所もある。今年度はコロナ禍で祭りや行事は中止。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月スタッフ会を開催しケア方法について検討している。3ヶ月に1度モニタリングを行い内容の把握・理解に努めている。	/	/	○	介護計画を継いでいるファイルを、職員が見やすい場所に置くなど、いつでもサービス内容を確認できるように工夫している。介護計画の内容を共有し、利用者にとってサービスを提供する上で、「実際にふさわしい内容になっているかどうか」を職員間で思案しながら実践している。支援経過にすべての記録を残すことは困難な場合もあるが、職員間での申し送りを充実させて補完している。介護記録は他の職員が読んでも分かりやすいよう利用者の表情や身体状況のほか、発言したそのままの言葉やエピソードも記載されている。また、職員の気づきや工夫、アイデアは、内容に応じて経過観察する内容もあり、次回の計画作成に活かせるよう記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の様子を観察し、実践できたこと・できなかったことを記録し状況の確認はできているが結果が記録出来ていないこともある。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	記録は、発されたままの言葉で記録する様にしてる。表情の変化も記録に残し、読めばその時の状況が思い浮かぶ様な具体的な記録を残すように努めている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	申し送りやカンファレンスで話し合い、気付きや工夫は話合えているが記録に残せてないことがある。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のカンファレンスや3ヶ月に1度のモニタリングを行い必要に応じて随時の見直しができる。	/	/	◎	入所後の間もない利用者には、心身状態などを確認して毎月実施するカンファレンスの中で話し合い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月カンファレンスを行い現状確認ができる。	/	/	◎	通常時は、3ヶ月に1回モニタリングを実施している。訪問調査日に血尿が出た体調不良の利用者がおり、同法人の看護師と連携を取りながら、受診調整等の迅速な対応の様子を見ることができた。また、利用者の状態や受診結果に応じて、現状に即した介護計画に見直すこととしている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化がある時は利用者様・家族の意見・要望を聞きまた連携している機関のスタッフにも意見を聞くなどし現状に即した計画が作成できる。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的に緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。	/	/	◎	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	1つのテーブルを全員が囲み、どの位置からもお互いの表情が見れるようになっている。スタッフの意見交換や自分たちの意見の言い合えるような雰囲気ができている。	/	/	/	月1回スタッフ会とカンファレンスを実施している。緊急案件のある場合には、その場で協議を行い、即時対応するようにしている。参加できなかつた職員には協議内容を資料にして渡すなど、知らない職員がいないよう伝達を徹底している。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全てのスタッフが参加できるように勤務表が出てから、希望休のない日を選び、スタッフに都合の良い日を聞いて会議日を決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	出席できなかつたスタッフにも会議の内容や資料を渡し周知できるよう努めている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	伝達事項の活用や申し送り表を工夫して、全員が共有できるような仕組みを作っている。	/	/	◎	日々の申し送りのほか、申し送り表の活用や会議資料のコピーを添えた会議録を回覧するなどの手順で、職員間の情報共有を図っている。また、確認後には、職員がサインをする仕組みがあり、伝達漏れがないよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送り表とは別にメモ紙を追加し皆が把握できるまで申し送り表に貼り付ける様にしている。	/	/	○	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
(2)日々の支援									
9 利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レクの時間を活用しやりたい事を聞く様にしているが一人ひとり聞くことはできていない。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	日々の生活の中で、職員は利用者の思いがくみ取れるよう努めている。塗り絵や数合わせ、トランプなどのレクリエーションのほか、食事の準備や手伝い、洗濯物たたみなど、職員は利用者の可能な範囲で自己決定できる場を作っている。また、食事のリクエストメニューを取り入れたり、趣味のミシンを活用した雑巾やおしほり、マスク、足ふきマットなど裁縫して作成したりするなど、利用者が明るく満足できる時間を過ごせるよう支援している。
	b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	スタッフがすぐに口や手を出すのではなく、見守りや声掛けにて利用者様の気持ちや気分を大切にし、自己決定できるような支援に努めている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様一人一人の思いを傾聴し表情やしぐさなどから思いを読み取れるよう心掛けている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床・就寝・食事・排泄は利用者様のベースで行えている事が多いが、入浴は1番風呂と決めている方もおり、居室の清掃の兼ね合いでスタッフの都合を優先している事がある。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けは明るく笑顔で行う様に努め、利用者様の表情を観察し、言葉に傾聴し思いを引き出せるような雰囲気づくりを行っている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	普段からの声掛けで表情の変化や発せられる単語を聞き逃さないよう観察している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
10 一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	スタッフ会で人権や尊厳について話す機会を設けている。声掛けや、声の大きさ・トーンについてはその時に注意し合える関係作りに努め意識した声掛けを行っているが、全てのスタッフができるとは言いきれない。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	常に職員は、利用者が人生の先輩であることを念頭に置いて利用者のプライバシーにも気を配りながら、要望などを丁寧にくみ取っている。年齢を重ねて難聴になった利用者には、職員が耳元でゆっくり話をするなど分かりやすく伝える工夫をしていたが、現在はコロナ禍のため難しい場面も多い。常にマスク着用していることもあり、職員の口の動きが見えず言葉が伝わりにくい点もあるが、筆談を活用しながらカバーする工夫をしている。
	b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	寄り添い、できるだけ一人一人に合わせた声掛けを行っている。耳もとでそっとぶやく様に伝えると伝わりやすい。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	まずは声掛けを行い、扉は必ず閉めている。また、入浴は個浴でゆっくりとは入浴できるようになっている。タオルを使用するなど配慮している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノックやインターホンを鳴らし入室している。また、入室する際には必ず本人に内容を伝え納得して頂くよう配慮している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	公務を問わず情報の取り扱いには気を付けています。また、申し送り表等は必ず伏せておくように徹底している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
11 ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理の取り分けや配膳・洗濯などスタッフと一緒に行い作業が終わったら必ずお礼を伝える等、感謝の気持ちを言葉でも表すようにし、支え合う者同士の関係性が築けている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	利用者同士のトラブルがあった場合には、ムードメーカー的な利用者が間を取り持ってくれている。職員は利用者の力も借りながら、お互いが居心地よく過ごせるよう対応している。
	b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士の支え合いを意識し、洗濯たたみ・食事の注ぎ分け・配膳等、得意な分野を積極的にやって頂けるような声掛けを行っている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	気の合う方同士が集まって話をされていることが多い。トラブルになった時は、一人一人の気持ちを考えお互いが嫌な気持ちにならない様工夫した声かけを行う等、居心地の良い場所作りに努めている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を感じさせないようにしている。	○	スタッフが間に入り不安にならない様に話を聞き、なぜトラブルになったのかを本人と一緒に考える時もある。話すことで気持ちの整理が付き、トラブルが解消される事がある。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	らしさシートを活用したり、情報はスタッフ間で共有している。本人や家族から話しを聞き把握に努めているが把握しきれていない所もある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	今まで行っていた地域での役割や馴染みの場所等会話の中から把握できることもあるが出来てない事もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所をドライブしたり、地域行事に参加する等馴染みの場所に出かけている。今年度はコロナ禍で外出中止。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつも気軽に訪ね、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	一人一人に合った居室環境を整えたり、家族や友人が会いに来られた時は、お茶を出したり居心地よく過ごせるように配慮している。今年はコロナ禍で希望者には居室の窓越し面会している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	定期的に法人内のレクに参加する為外出している。天気の良い日は外でレクを行ったり、散歩をしている。毎日外出したい方はスタッフが付き添い散歩するようしているが一人一人の希望には添っていない。今年度はコロナ禍で合同レクや外出中止。	△	x	△	日頃から事業所周辺を散歩したり、定期的に地域行事や遠足行事など外出したりできるよう支援している。現在はコロナ禍のため、日常的に戸外に出て過ごすことは困難であるが、敷地内にある菜園で野菜を収穫したり、花壇の手入れなどをしたりすることで、利用者の気分転換ができるよう努めている。現在、重度の利用者はいないが、以前は玄関先に出て花壇を眺めるなど、外気浴や気分転換もできていた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	近所の障害者サークル利用者の運動とGHの外出支援を兼ねた方策を関係者で模索している。今年度はコロナ禍で計画は中断している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	回数は少ないが天気の良い日は玄関先で季節を感じて頂いている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	年に2回の遠足では家族参加で希望の場所に行けるよう計画を立てている。地域行事では席を設けて下さる等協力が得られている。今年度はコロナ禍で遠足や祭り・行事は中止。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の変化を観察し状態の変化に気付ける様にしたり、スタッフ会で一人一人のケア方法について話し合っている。	/	/	/	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	できることはご自分のペースで行って頂く等、本人のペースを大切にしながら、生活の中にリハビリをとり入れ維持・向上に努めている。	/	/	/	敷地内にある菜園や花壇を活用して、利用者と一緒に野菜や花などを育てている。食事の際には職員が見守りながら、利用者が自主的に食事の準備や片付けなどができるよう支援している。また、事業所内の図書館として、利用者に本の貸し出しも行っていたが、現在はコロナ禍のため中止をしている。
		c	利用者の「できること、できうこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行こうようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	得意分野を積極的に行って頂いている。家事等は口を出さずに人数分つぎ分けで頂く等考えながら作業して頂いたり、気分や体調によって難しい時はスタッフも一緒にしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	得意分野や習慣を大切にしている。らしさシートやご家族様から教えて頂いている。	/	/	/	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	「できること」「やりたいこと」を大切に時間がかかってもご自分のペースで行って頂く様にしている。	○	○	○	趣味の園芸を生かし、花の植付けや水やり、居室に花を活けるなどに取り組む利用者もあり、職員は持てる力を活かせるよう支援している。食事準備の際には、自主的に利用者が主食や副菜などの盛り付け、配膳や下膳の手伝いを行うなど、生き生きとした利用者の姿を確認することができた。
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事に参加し、顔見知りの方との会話を楽しめている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みで服を選んでいただけたり、イベント時にはオシャレをして出かける様に努めている。	/	/	/	男性の利用者は自ら洗面台で髪の手入れを行い、職員が仕上げを手伝うこともある。食べこぼしや口のまわりに汚れが見られれば、職員がさりげなく拭き取っている。利用者の好みの衣服や靴は、家族に協力して用意してもらっている。また、看取りの介護の際には、利用者が好んでいた衣服を孫が用意し、最期まで本人らしく過ごすことにつながった事例もある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	散髪は地域のサロンが毎月1回来てくれている。ご自分の意見を伝えカットして頂けている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	表情や言動等で本人の思いに添うように努めているが、スタッフの意向が強く出る時もある。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時の服は一緒に選んだりしている。本人らしいオシャレができる様に努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	毎朝の整容やその都度衣類の乱れや汚れ等気付いた時にはさりげなく着替えるよう促している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	望む方には行きつけの美容院へ連絡し予約を取っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	無理のない程度で顔を拭いたりひげをそっている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事は生きる力につながる事を理解し、献立の説明や、食事の感想をたずねたり、楽しみながら食事ができる様な雰囲気を大切にしている。	/	/	/	法人の管理栄養士の献立を立て、共同調理場で調理された食材が事業所に届けられ、利用者と一緒に楽しみながら盛り付けや後片付けをしていく。利用者の苦手な食材がある場合には、事前に変更する対応をしている。リクエストの献立も取り入れ、チキンライスやピザなどは利用者に人気がある。隣接する看護小規模多機能居宅介護事業所には、手作りおやつ担当を兼ねている職員があり、協力してもらしながら利用者と一緒に盛り付けをしている。茶碗や湯のみ、箸等の食器類は利用者に合わせた使いやすいものを使用している。通常、職員は利用者の食事介助やサポートを優先しているが、イベント食の時には利用者と同じ食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。全介助が必要な利用者も、日中には共用空間に出て過ごしており、料理の匂いや音を感じることもできている。また、定期的に管理栄養士から食事に関するアドバイスをもらい、利用者の食生活に役立てている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	買い物や食事の調理はできていないが、干し柿作り等は行っている。また、食事の準備から注ぎ分け・後片付けは利用者様とともにに行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事の調理は行えていないが、盛り付けや後片付けは個々の握力や視力等の把握を行い、うまく注ぎ分ける事の出来る食材を注ぎ分けて頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーはアセメントの時点で必ず尋ねるようにしている。利用者様に直接好き嫌いをたずねたり、食べ残しを確認し把握に努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	お餅が苦手な利用者様にはあらかじめ確認し、酢飯にするか白米にするか選べるように努めている。献立は管理栄養士が行っているが旬の食材が使用されていたら、リクエスト料理で旬の食材を取り入れている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	利用者様に盛り付けは行って頂いているが、スタッフの声掛けや、一部手伝うことで美味しいように努めている。また、キサミはその時の食事状態に合わせて大きさを変えている。おなかの調子や、体調が良い時はお粥にするなどし対応している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	事業所で用意しているが、個人の物を使用している方もいる。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べながら感想をたずねたり見守りながら一人一人のペースを大切にしている。また、食べ方に混乱している場合はスタッフと一緒に食べる事でペースをつかめる時もある為、すぐに食事介助するのではなく、まずは声掛けやしぐさで自力摂取を促すように努めている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通じて利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	介助が必要な方に対してはメニューを言葉で伝えたり、五感に働きかける様に努めている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	○	食事摂取量の把握や、必要な方に対しては水分摂取量の把握も行っている。管理栄養士と相談しながら栄養バランスを考えている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食欲がない方に対しては補食で好物を摂取しながら栄養のバランスをとったり、水分摂取が必要な方に対しては数日間の水分摂取状況や摂取した時間帯が一日で把握できるように個別に記録している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	食事は管理栄養士が管理しているが、リクエスト料理の時はスタッフで話し合い、調理方法を決め管理栄養士にアドバイスしてもらっている。本日のメニューの評価を記録し栄養士に届けている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材を取り分ける時等必ずグローブを着用している。又、調理器具や食器には使用直前にセーフコールを使用し衛生面に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解できている。ご自分のケアが難しい方に対しては磨き残しが無いかのチェックを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助が必要な方の口腔内の把握や、全員の義歯の把握は出来ているが、舌の状態は把握できていない方もいる。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	週に2回歯科衛生士が口腔内のチェックを行い指導を受けている。又、口腔内トラブルや口腔ケアの仕方については随時相談出来る。	/	/	/	週2回歯科衛生士の訪問があり、定期的に職員と一緒に利用者一人ひとりの口腔内の状態を確認し、記録に残している。朝・昼・夕の食後に、利用者は歯磨きを欠かすことなく続けており、おやつの後にもすることもある。利用者自身で、できる部分の歯磨きをしてもらい、できない部分の介助や仕上げを職員が手伝っている。
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夕食後に洗浄液に浸け対応している。手入れが難しい方や汚れが残っている場合は介助にて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来る事はご自分で行って頂き、手入れが必要な方に対しては一部介助を行っている。ケア時に出血している場合や炎症等は全員が把握できるよう記録や申し送りを行い、随時歯科衛生士に伝えるようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診などの対応を行っている。	◎	変化を発見した時は歯科衛生士と連携をはかり歯科受診へ繋げるよう対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	紙パンツやオムツが与える皮膚への影響など、スタッフ会にて話し合いを行い皆で共有している。定期的、又は隨時にトイレ誘導を行いなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	/	/	/	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	日々の生活の中で、食事量やトイレの回数等の観察を行い話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	シグナルの観察や排泄チェック表を記入しパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	なるべくトイレでの排泄を促している。パットは尿量を踏まえ検討している。又、下剤を内服した場合は本人に説明し納得していただきうえで紙パンツに一時的に交換するなど対応している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	下剤を使用しているが下剤の量や内服のタイミング等は本人と相談しながら決めている。また、便秘気味の方に対しては食物繊維の多い物や水分を多めに取っていただく等取り組んでいる。	/	/	/	トイレで利用者が自立した排泄できることを基本目標として支援している。職員はトイレ誘導や声かけ、介助などを行っている。おむつメーカーに研修の実施協力をしてもらい、職員は適正なおむつの使用方法などを学び、利用者の必要に応じた排泄用品の選択や使用を心がけている。また、家族に対しても、職員は利用者のおむつ使用に至った経過をきちんと説明できている。
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるように誘導や声掛けを行っている。また、表情や行動も気にかけながら兆候を見逃さないように観察を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族の意見を取り入れながらパットの種類やリハビリパンツ使用のタイミングを検討している。又、スタッフ会で排泄状況について話し合う機会を設けている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	下剤内服時は本人と話し合い、リハビリパンツを使用する事もある。体調不良時等でその都度使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘がちな方は散歩を促したり、水分や乳製品を多めに摂取して腹圧をかける等取り組んでいるが、3日排便なければ下剤を使用する事が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週3回の入浴時間や温度はその都度確認しながら利用者様に合わせている。入浴を拒否された場合は理由をきき入浴日を変更しているが入浴の曜日はスタッフが決めている。	◎	/	○	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	浴室は個浴で個々のペースで入浴できている。又、浴槽につかっている時は寄り添い話しやすい空間を作りだし、昔話や思いを聞くように努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はなるべく任せるようにしている。手が届きにくい所はさりげなくフォローしながら本人の力を活かせている。	/	/	/	利用者は、週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に合わせた支援を行うとともに、湯の温度や入浴時間などの希望にも応じている。入浴時には、至福の癒され笑顔を見てくれる利用者もいる。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方に対しては理由を聞き解決できるように努めたり、曜日を変更している。また、時間帯に関しては遅めに入りたい方や早めに入りたい方の希望を聞くようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝食後にバイタル測定を実施している。又、バイタルに表れない表情の変化や会話からも体調の変化を把握できるように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をチェックしたり、毎日の申し送りで把握できるようになっている。	/	/	/	職員は体操や室内の歩行を取り入れるなど、日中の活動量を増やしたり、昼寝時間を短くしたりするなどの工夫をしながら、利用者が安眠できるよう努めている。入所前から睡眠導入剤等を服用している利用者もいるが、担当医のアドバイスをもらいながら、できるだけ減薬や服薬の中止ができるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	個々の生活を観察し、昼寝時間の調整や適度な運動・活動を取り入れている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	極力睡眠導入剤にたよらず、散歩や体操を積極的に行ったり、考えるレクを行っている。又、話を聞く事で安心感を持っていただき不安を解消できるような支援を努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個人の居室で休みたい時に休んで頂いている。又、フロアで休む場合もソファーやリラクニングで休める環境を整えている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様から要望があった時はその都度支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	決めつけはせず、電話で話したいと言われた時は本人が気持を伝えた後、家族が理解しやすいようにスタッフが代弁する事もある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	何時でも電話ができるようになっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるよう工夫している。	○	荷物が届いた時は必ず本人の声でご家族様に届いた事や近況を伝えて頂いている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話があった時は「また何時でも掛けて来て下さい」とお伝えし電話をかけてきやすい様声をかけている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	入居前の生活の中で金銭管理を行ってきていた事を理解し、ご自分がお金を持つ事で安心感につながる事を理解してきている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	本人が買い物に行く事がほとんどないが、欲しい物を紙に書き出して頂き、購入後本人からお金をいただくようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	慣れ親しんだ店に理解や協力を働きかけを行えていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族様に対して、事前に、混乱したり、失くす可能性を含めて伝えている。本人が希望したり、安心できるのなら財布をお渡しできるよう、理解していただくように努めている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人・家族と相談し所持方法や使い方を決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理办法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理ができず、家族が遠方に住まわれていたり、共働きの方は、ご家族様と話し合い、希望の金額を預かっている。管理者が金庫で保管し、使用した日付や内容を記入している。レシートは定期的にまとめて家族に確認していただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況に応じて対応できるように随時スタッフ間で話し合いを行っている。利用者様や家族の要望に応えられるよう努めている。	◎	○	事業所では利用者や家族の意向や希望を聞き、可能な限り柔軟に幅広く対応できるよう努めている。	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽にに入る玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関に鉢植えやインターホンを設置したり、認知症センター及び認知症の相談場所であるポスターを掲示し、誰もが気軽に出入りできるような務めています。	◎	○	◎	地域住民から花や植木などを提供していただき、菜園や鉢植え等で育てており、利用者や来訪者は季節折々の草花等で季節を感じることができます。広い駐車場の中央付近には、昔からの井戸やポンプが設置されていた名残があり、天気の良い日には利用者がくつろぐ大切な場所にも活用されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない穀風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐのような設えになっていないか等。)	○	共有空間には観葉植物や頂き物のつぼを置いたり、利用者様と作り上げた壁画を季節ごとに飾っている。又、利用者様が自宅で使用していた物をフロアに置いたり、ソファーにはタオルケットを置くなどしくつろぎやすく、居心地の良い空間作りに努めている。	○	○	◎	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は午前午後と2回行っている。テレビの音等はその都度利用者様に尋ねながら調節したり光はカーテンやすだれで調節している。			○	事業所には中庭を囲むような形で共用空間があり、例年文化祭に出品する大作の壁飾りが飾られている。座り心地の良いソファが各所に置かれ、利用者は好みの場所でゆったりと座りながらくつろいでいる。事業所内に差し込む採光の調節はよしらずやブラインドで行い、時折窓や戸を開けて換気をしている。事業所内から見る景色は、四季を通じて桜などの草木や花を楽しむことができ、利用者は心癒されている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じながら壁画を作り飾っている。中庭には紅葉の木が植えてあり、紅葉や落ち葉が散るさまを窓越しに眺め季節を感じられている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	廊下にソファーを設置しそこが集いの場所になっている。又、窓のそばに一人掛けのソファーを置く事で日光浴ができ思い思いの時間を過ごせている。			○	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室は二重扉になっておりトイレは各居室にあり、入り口から見えない位置に設置されている。			○	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人の使い慣れたものを持ってきていたり、なじみの物を飾ったり自宅で生活していた時と変わらない空間づくりが出来るようご家族様とも相談し、又、安全に過ごせるよう家具の配置を考えている。	○	○	◎	全ての居室にはトイレと換気扇が設置され、とても広くゆったりとしている。換気や清掃も行き届き、清潔感がある。利用者自身が育てた花を居室に活けたり、馴染みの物を持ち込んだりするなど、個性豊かな居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手の届く所に箸を置き、ご自分のベースで食事の準備に取り掛かれるようにしたり、他の利用者様の手指消毒を行っていただけるよう消毒液もすぐ手の届く所に置いている。			○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	刃物を持ち込まれている方に対しては家族・スタッフ間で話合い、いったん預かり、必要な時に使用していただいている方もいる。				利用者が居室やトイレなどの場所を迷わないように、事業所内には分かりやすく名前や写真等の表示をしている。利用者の安全に考慮し、電源コードなどのつまづきそうな危険な物は足元に置かない工夫をしている。
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(はつき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ボット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	以前から取っていた新聞を継続している方や、居室にボットや急須等を置き何時でもホッとした時間を持つようしたり、居室には自宅から持て来られたはうきを置き掃除されたり、雑誌はフロアの誰でも手に取れる所に置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	施錠することに対してスタッフ間で話し合い、施錠はしていない。自由に入り出しができるような開放感のある空間作りを行っている。利用者様自らが施錠される場合は施錠していただき、合意鍵を使用している。合意鍵使用に対しては説明し承を得るようにしている。	○	○	○	職員は施錠することによる利用者の弊害をしっかりと理解できている。事業所では鍵をかけない生活を通して、利用者の暮らしを支えている。夜間等に居室を施錠している利用者もいるが、見守り時など合鍵での入室は事前に説明して対応できている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	歩行状態の観察が必要な方に対してご家族に説明し、スタッフがさりげなく付き添いながら自由に散歩できる環境を整えるよう努めている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄間に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	同法人内の地域密着型施設等が駐車場及び門扉を取り廻すように配置され、一人で外出された場合に声をかけていただきたり、事業所に連絡できる体制作りを行っている。				

愛媛県グループホームはなみづき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	<input type="radio"/>	らしさシートや、アセスメントシートで把握している。スタッフ間のバラツキを防ぐため、利用者担当を1年間づつで交代するようしています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	<input type="radio"/>	毎日のバイタル測定だけではなく、日々の関わりの中で表情や話し方等のちょっとした変化も気付けるように観察を行い、記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	<input type="radio"/>	少しの変化や気になる事でも隨時看護師に報告し、相談をし、かかりつけ医にも気軽に相談できる関係が出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	<input type="radio"/>	本人・家族が希望する医療機関に受診できている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<input type="radio"/>	本人・家族の希望を大切にかかりつけ医と相談しながら医師と事業所の関係が築けている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	<input type="radio"/>	通院前には必ず家族に連絡を取り、付き添いが可能か確認し、事業所が付き添う時には受診結果や医師からの言葉をありのままに報告するよう努めている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	<input type="radio"/>	本人の生活歴や注意事項を記入している利用者情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	<input type="radio"/>	入院先の地域連携室と連絡を取り合いながら状況の把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	<input type="radio"/>	入院中地域連携室のスタッフと随時連絡を取れる体制作りに努めたり、かかりつけ医による医師同士の関係を築いて下さっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	<input type="radio"/>	同法人内で医療連携を図っており、随時相談できる状態にある。隣接する看護小規模多機能の看護師には夜間の出来事を用紙に記入し毎朝確認できるような体制をとっている。又、夜間は老人保健施設の看護師に連絡し緊急時に協力してもらっている。主任や管理者が直接かかりつけ医に連絡を取り支持を仰ぐ場合もある。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	<input type="radio"/>	24時間相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	<input type="radio"/>	日中は随時どんな小さな変化でも報告し、夜間も変化があれば用紙に記入し適切に対応できる体制作りに努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	<input type="triangle"/>	処方箋のファイルを作成し何時でも確認でき、随時確認を行う習慣は付いているが、スタッフが全てを理解できているとは言えない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	<input type="triangle"/>	薬の袋に色分けしたマーカーで線を引き、朝・昼・夕・タが一目でわかるようになっている。又、与薬時には名前を呼び本人である事を確かめ誤薬防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	<input type="triangle"/>	副作用による活動抑制や周辺症状の誘発等意識はしているが日常的に確認を行っているとは言えない。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	<input type="radio"/>	バイタル測定時の数値や状態に変化が起った時は記録し、随時スタッフ間で話し合い、看護師に相談するような体制を整えている。				

愛媛県グループホームはなみずき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化的段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に『重度化対応・終末期ケア対応指針』を用いてご家族様に説明を行っている。又、状態の変化に伴いご家族様と意向の確認を行えている。	/	/	/	
		b	重度化・終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化・終末期のあり方は段階ごとにスタッフ・看護師で話し合い、かかりつけ医に伝えそこで更に話し合いを行い情報や方針の共有を図っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	月に1度のスタッフ会やその都度スタッフから話を聞き、何気ない会話の中からもスタッフの思いや力量を把握するよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医師の意見を聞き、看護師・管理者・ケアマネジャーが終末期を迎えた利用者様の家族に説明し、ご家族からの質問等でもお応えできるよう努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	随時スタッフで今後の変化について話し合い、看護師や医師に状況を伝えながら急変時にも対応できるよう連携を図っている。家族にも回数を増やし連絡をとったり、面会を増やして状態の把握をして頂いている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	スタッフに話しかけやすい環境作りに努め家族の言葉に寄り添い傾聴するよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癡、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人内で感染委員会が勉強会を行い、各部署で感染委員が主体となり、勉強会を開催し、更に細かく発生時の対応について決めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	「動作1)消毒等、手指消毒の徹底を行うようスタッフ・利用者様に促している。各居室や手すりに処理品を備え発生時に速やかに処理が出来る環境を整えているが、回数を重ねての処理対応の訓練は出来ていない。コロナ禍対策としてゾーニングも設定しています。」	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	愛媛県や今治市等でコロナ等感染発生状況を入手し、併せて対策に万全を期している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に隨時対応している。	◎	行政から情報を収集し、理事長である医師の判断のもと面会や外出制限に協力していただいている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	スタッフは出勤時に検温、うがいおよび手洗いを徹底している。来客者等に張り紙や声掛けにて検温、うがいや手指消毒の協力を促している。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみすき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
II 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には、利用者様を交えて家族とスタッフで会話したり、日頃の様子をお伝えするように努めている。	/	/	/	家族と職員の関係は良好で、何かあれば電話で頻繁に報告するほか、訪問時には利用者の状況を伝え、家族は安心できている。毎月の請求書送付時には、事業所の写真入りの事業所便りを同封し、利用者の様子を伝える工夫をしている。ここ一年間はコロナ禍のため、家族が参加できるイベントや運営推進会議などは従来の形で実施できていないが、家族へ電話や来訪時に気持ちを伝え、管理者は「家族との良好な関係づくりにつながった」と感じている。また、コロナ禍においても、ガラス越しでの面会やリモート機能を活用した面会対応もできている。今後は、事業所便りを活用して、事業所での職員異動や入退職などの情報についても掲載を予定している。また、管理者はコロナ禍の終息後に、家族参加のイベントなどが再開できるようになれば、以前と同じようにお知らせや家族の協力を仰ぐことを予定している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	個室になっており、面会時は各居室で談話される事が多い。フロアで談話される時はお茶やコーヒー等お出しし心地よい空間作りに努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	遠足やイベント・運営推進会等家族参加の機会を作っているが参加される家族は決まっている。今年度はコロナ禍で実施できず。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	希望者には家族とのライン回線を使った動画を配信している。月刊グループホームはなみすきを毎月お送りしている。行事の前や贈り物があった場合には必ず電話をしている。その時に直接本人の声を聞いていただけたり、近況報告や状態をお伝えしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の希望等記入できる用紙を2ヶ月に1度郵送し記入して頂いている。ご家族様がしたい事に向き合い説明を行うよう努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていくように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族が本人に対する思いを大切にしている。認知症への理解が難しい家族に対しては主治医からも説明を行って頂いている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事やスタッフの異動・退職等は月刊誌や運営推進会議で報告したり、面会に来られた時にお伝えするようにしている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	遠足等の行事で家族交流の機会を設けているが、参加される家族も限られており、参加人数も年々減ってきているのが現状。今年度はコロナ禍で実施できず。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクについて前もってスタッフ間で話し合い、家族にお伝えし変わらない生活が送れる対策をとるよう努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が意見や希望を言いやすいように面会時に声をかけたり、相談しやすいような声掛けを行っている。発熱等体調不良の場合は、体調が回復するまで状態を伝えるようにしている。	/		○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時・内容に変更があった場合は説明を行い納得を得られている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいい退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約書に基づき利用者様の状況をふまえ説明している。本人・家族の納得が得られている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時・料金改定時には文書で示し具体的に説明し同意を得ている。同意書・証明書を作り印鑑を頂き保管している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
III. 地域との支え合い									
39 地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域: 事業所が所在する市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	<input type="radio"/>	民生委員や自治会長や老人クラブ会長等のご理解により開設し、運営推進委員にも就任いただいている。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
	b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らしつづけられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	<input type="radio"/>	地域の方にあれば必ず挨拶は行っている。地域行事には積極的に参加し顔見知りの関係を築いたり利用者様と地域の方の顔なじみの関係を大切にしている。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	<input type="triangle"/>	昔から支援して下さっている地域の方は現在も変わらず関わってくれているが増えたとは言えない。					
	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	<input type="triangle"/>	近所の方が気軽に立ち寄ってくれているが、特定の利用者様のみの事が多い。					
	e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	<input type="triangle"/>	気軽に声は掛け合い会話をするが、立ち寄ったりお付き合いが出来るほどではない。					
	f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	<input type="radio"/>	月祭り等のイベントではボランティアの協力のもとバザーを行っている。又月に1度のペースでボランティアが踊りや歌の出し物を披露して下さる。					
	g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	<input checked="" type="radio"/>	春市や虫送り秋祭りなど、地域の伝統行事に積極的に参加している。市主催の文化祭等に作品を展示し地域のみなさんに見て顶く機会を設けている。今年度はコロナ禍で実施できず。					
	h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を広げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店・理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	<input type="radio"/>	地域の理美容店に散髪をお願いし、協力を頂いている。又、月祭り等のポスターをコンビニや病院に貼らせて顶いている。近所の障害者サークルとの共同作業や外出を計画していたが、今年度はコロナ禍で実施できず。					
40 運営推進会議を 活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	<input type="triangle"/>	毎回案内を出し出席を促している。地域の方の参加はあるが、家族の参加が見られない。今年度はコロナ禍で書面開催。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	<input checked="" type="radio"/>	日常生活の写真をパワーポイントで見やすく写し出し説明できている。評価への取り組みも内容を伝え説明できている。			<input checked="" type="radio"/>		
	c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	<input type="radio"/>	会議の終わりに意見交換の場を設け、事業所の取り組みについての感想や意見が気軽に言い合えるような雰囲気作りに努めている。今年度はコロナ禍で書面開催。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
	d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	<input type="radio"/>	会議の終わり次回の開催日を決めるようにしている。いつもは第2木曜日と決まっているが、参加される方の都合で前後する事もある。今年度はコロナ禍で書面開催。	<input checked="" type="radio"/>				
	e	運営推進会議の議事録を公表している。	<input checked="" type="radio"/>	玄関入って直ぐの所に誰でも閲覧できるようにしている。					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	その人らしさを大切に、持てる力に寄り添いながら日常的に取り組んでいるが全てのスタッフが出来ているとは言えない。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は理解しやすい言葉を持ち、誰もが見やすい位置に掲げている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の 代表者であり、理事長や 代表取締役が該当する が、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をそ の法人の地域密着型 サービス部門の代表者と して扱うのは合理的では ないと判断される場合、當 該部門の責任者などを代 表者として差し支えない。 したがって、指定申請書 に記載する代表者と異なる ことはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	グループホーム交流会の年間スケジュールや地域の研修会を把握し、スタッフにあった研修が受けれるよう努めている。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修会を行ったスタッフはその月、又は翌月に自分の行った研修内容をまとめ、スタッフ会で再度スタッフに報告するようにしている。今年度はコロナ禍で研修会を開催なし。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個々の働きを見極め褒め活かす声掛けを行っている。スタッフの得意分野を活かし向上心を持ちやりがいのある業務に繋げ、働きやすい職場環境にするよう努めている。人手不足で個人差があることは否めない。来年度は外国人実習生を迎える。	/	/	/	代表者である法人の事務長は自ら職員一人ひとりに話しかけ、職場内の様子を聞いて意見を取り入れたり、きちんと年賀状を送ったりするなど、働きやすい職場づくりと職員のモチベーションアップにも努めている。また、職員は外部研修に参加することもでき、参加した職員は、翌月のスタッフ会の中で、学んだ内容の伝達研修ができる。
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修会に参加し同業者と交流する機会を作り、スタッフが意識向上できるよう努めている。今年度はコロナ禍で研修会を開催なし。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	面談を行い話を聞いたり、スタッフ全員で食事会に行きストレスの軽減を図っているが、全てのスタッフのストレス軽減に繋がっているとは言えない。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	勉強会にて全スタッフが理解できるように努めている。意識してケアに従事しているが、不敵な声掛けや態度になりそうな場合は、その場で誰でも注意出来る関係を作っている。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	スタッフ会や随時スタッフから話を聞き、改善できる事は迅速に対応するように心がけている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	包括支援センターのスタッフを招いて虐待について勉強会を行った。そこで行為を発見した場合の対応方法や手順について学んだ。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	△	外部講師を招いて勉強会を実施し、虐待防止などを職員は学んでいる。職員の不適切な言葉づかいなどが確認されたため、スタッフ会で話し合うほか、管理者は再発防止に向けて職員用のトイレに啓発ポスターを貼り、「職員の意識づけに役立てていきたい」と考えている。それ以後、常に職員は意識して緊張感を持ちながら、利用者に接することができるよう努めている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフの家庭的事情等考慮し勤務表を作成している。出来る限り話を聞きケアに影響しないよう注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会やスタッフ会にて全スタッフが理解できるように努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	現在行っているケアを振り返り身体拘束に当たるかもしれない場面をスタッフ会で話し合っている。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在、ご家族様からの要望はない。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	会議や研修会で成年後見制度について学習している。管理者は任意後見人となっている。利用さんの中にも任意後見契約されている方が2名いる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点などを含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者は成年後見制度について、パンフレットを用いたりわかりやすく説明が出来る。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	他にも子供がいなく制度を利用されるべき人がいるため、関連機関との連絡や相談は出来ている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	勉強会を開催し状態に合わせた対応を確認している。事故発生時の緊急連絡網は作成し一目でわかる所に貼っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。	○	研修会に参加し学んだ事を資料を交えてスタッフ会で実施したり、随時看護師から学んでいるが、定期的に開催は出来ていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	毎月スタッフ会にて事故・ヒヤリハット報告書をもとにスタッフ間で対策案を再確認し、再発防止に努めている。ヒヤリがあれば報告・記録し、事故へと繋がらないように検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のちょっとした変化にも気付く事が出来るよう観察し、毎月のスタッフ会や随時、現在の現状を踏まえ検討し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しているが、スタッフ全員が理解できているとは言えない。苦情があった場合の対応はスタッフ間で話し合っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情処理委員会を設置しており、担当者に繋ぐ手順についてはある程度理解できている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は法人内共通の思いやりシートを作成し委員会を開催したり会議での話し合いを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご意見箱を設置しているが成果がない。管理者直行使を各自に配布し意見を求めた。日常の何気ない会話の中での要望や意見を聞き逃さないように努めている。	/	/	○	日頃から職員は利用者のことをよく観察し、常に傾聴できる姿勢で意見を聞き出せるよう努めている。家族と職員の関係は良好で、届け物などの来訪時やリモート機能を活用した面会時などに意見を聞き取っている。職員は管理者と良好な信頼関係が築かれていることもあって話しやすく、じっくりと話を聞いて対応してくれている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	ご意見箱を設置しているが殆ど利用されていない。重要事項説明書に法人・事業所の相談窓口を提示している。	(◎)	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に閲覧できるよう情報提供行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	日頃からスタッフと会話し意見があれば聞き取り等行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聞く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に1~2回面接を行っている。また、日頃からスタッフが管理者に直接意見や提案が出来るような関係作りに努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回ではあるが自己評価に取り組めている。	/	/	/	運営推進会議の中で、外部評価の結果や目標達成計画を報告している。また、管理者は家族にモニターの問い合わせをしているが、特に主な意見を得ることはできていない。また、家族のアンケート結果からも、家族は「事業所でのサービス提供は十分である」と感じている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回で4回の評価を通して課題はほぼ明らかになってきている。今後の学習を重ね意識統一を図りたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	災害時の避難場所の指定を受けるよう取り組んでる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族や運営推進会議に、目標達成計画を報告を行っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	経過報告のみとなっている。今年度はコロナ禍で月祭りやイベント開催なし。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成して、玄関に備えている。	/	/	/	年数回、消防署による火災報知機の点検や消火器の使用方法などを含む避難訓練を実施している。現在はコロナ禍のため、地域住民を巻き込んだ訓練などは実施することができない。近隣には、法人の介護老人保健施設やデイサービスなどがあり、災害発生時の協力体制は整っている。また、今後の訓練には、地元の消防団に参加協力を得ることを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間・夜間帯を想定したマニュアルを作成している。	/	/	/	
		d	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回避難訓練を実施しており、避難経路や消火設備の点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍のため地域を巻き込んだ消防訓練は出来ていないが、関連施設間の共同訓練や連絡体制は確立している。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行なうなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町・自治会・消防・警察・医療機関・福祉施設・他事業所等)	○	毎年北浦地区の自治会防災訓練に管理者が参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向け情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	玄関に認知症の相談窓口のポスター掲載している。広報活動・認知症についての勉強会・スタッフ全員が認知症サポーター育成研修に参加している。	/	/	/	法人・事業所として相談支援できることを地域住民は理解しており、相談できる準備が整っている。現在はコロナ禍のため、様々な地域行事やイベント、会議の開催はできていないが、日頃から市担当課や地域包括支援センターなどと連携が密に取れている。コロナ禍が落ち着いた際には、中学生の職場体験や専門学校の実習の受け入れ、会議等の開催を即座に再開できる準備を整えている。また、災害発生時の地域の福祉避難所にも指定されており、地域に頼られるケア拠点となっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	利用者様の家族へ対応は出来ている。入所申し込み時の聞き取りにアドバイスする程度で、地域の高齢者やその家族等への支援は十分に行えていない。	○	○		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	福祉難所として今治市より指定をうけました。今年度はコロナ禍で月祭りやイベント開催なし。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	専門学校や中学生等のインターンシップ等で受け入れを行っている。今年度はコロナ禍で受け入れなし。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事やイベント活動に参加し各機関と連携を図るように努めている。今年度はコロナ禍で祭りやイベント開催なし。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会	
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号	
訪問調査日	令和 3 年 3 月 12 日	

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数 6名		

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名	グループホーム はなみずき
(ユニット名)	2 (B)
記入者(管理者)	
氏 名	山本良広
自己評価作成日	令和 3年 2月 27日

**ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

[事業所理念]	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果]	[今回、外部評価で確認した事業所の特徴]
<p>「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います」 ・私たちは、その人らしさを大切に、今までの・これからの持てる力に寄り添います。 ・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。「いつも笑い声と笑顔があふれる」そんな場所を目指します</p>	<p>①時に事故防止等のため不適切な言葉遣いがあるため、職員全員で不適切ケアの防止に努める。⇒高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。</p> <p>②利用者に対して[やりたいことシート]を配布・集計して、ご家族と相談して実現できるものは積極的に実施する。⇒遠足、外食、ドライブ等外出を伴う希望が多くコロナ禍で中断している。</p> <p>③新型コロナウイルス感染防止対策の国の動向を注視しながら、家族面会や各種交流の時期を見極める。居室の締め切ったサッシ窓越し面会は可、皆でグループホーム裏の菜園にて野菜や花を栽培し採れたての旬を味わっています。</p> <p>④家族会のメンバーに評価結果に対するモニター依頼し、検討していただく。⇒ご家族に対してワムネット公表と目標達成計画等を配布してご意見を求めました。</p>	<p>利用者や職員に信頼されている管理者を中心に、日々安心できる支援が展開されている。事業所の理念を職員は念頭に置き、利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、「らしさシート」を活用しながら介護計画を作成しており、職員の気づきや工夫、アイデアを大切に取り入れながら、利用者に笑顔が溢れる心地よい生活が送れるよう取り組んでいる。常に利用者の視点を大切にするとともに、人生の先輩として敬い尊ぶ心で職員は接している。現在はコロナ禍のため、面会や外出などの制限が多い中、リモート機能を活用した面会や菜園での野菜栽培など、可能な範囲で要望に応えられるよう努めている。また、母体が医療法人で、事業所では医師や看護師などとの連携が取れており、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所は開設して4年余りであるが、すでに数名の看取り経験を重ね、職員間のより一層団結力が生まれ、職員の自信やレベルアップにもつながっている。運営推進会議での意見や提案も取り入れながら、法人・事業所として、地域に頼られるケア拠点となっている。</p>

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1 思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様の言動に傾聴するよう努めている。利用者様の思いを大切に毎月のカンファレンスや必要時に話し合いを行ったり、定期的にモニタリングを行い生活についての希望・意思を話し合っている。	◎	/	/	◎	職員は、利用者に「こんなことできたらいいな」「やりたいこと」などの希望調査を行い、思いや意向を確認している。コロナ禍の異常事態の中でも、事業所として利用者にとって実現できることは、新しく生活の中に取り入れていけるよう全力で取り組んでいる。
	b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の表情や行動の観察に努めている。毎月のスタッフ会や申し送りの際に利用者さんにとどけどのような事をすれば一番よいか又、一人一人のケア方法について話し合っている。	/	/	/	/	
	c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ライン回線を使ったビデオ通話面会時や家族へ電話をした時等に近況を報告し利用者様の思いを共有するよう努めている。	/	/	/	/	
	d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	希望や訴えがある時は本人の言葉で記録に残すようにしているが全てを記録できているわけではない。スタッフ間での申し送りで周知できるように努めている。	/	/	/	/	
	e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを中心に検討するよう心がけているが、時に家族の思いやスタッフの思いが強くなる時がある事は否定できない。	/	/	/	/	
2 これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	「らしさシート」を活用し今までの生活の把握に努めている。本人のこだわりに関してはその都度面会に来られた家族や親族に尋ね、こだわる理由を教えて頂いたり、生活スタイルについて話を聞くよう努めている。	/	/	/	○	「らしさシート」には、「生い立ち・出身地・家族構成・性格・生活習慣・こだわり・馴染み・趣味・特技・これまでの病気」など項目があり、職員は利用者や家族から聞くよう努めている。ガラス越しやリモート機能を活用した家族との面会時や電話連絡時にも、職員は利用者の暮らし方などを聞き取り、記録して利用者の現状把握に努めている。
	b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	一人一人の会話やレクリエーション等を通じ、細かい作業が苦手な方や、考える事が苦手な方等、出来る事や苦手な事への把握に努めている。	/	/	/	/	
	c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の声掛けやコミュニケーションの中から行動を観察し、利用者様が好む落ち着く場所やその状態の把握に努めている。	/	/	/	/	
	d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	注意深く本人に寄り添い把握しようと声をかけている。又、スタッフ間でも話し合いを行い要因の把握に努めている。	/	/	/	/	
	e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員は利用者様一人一人の出来る事や苦手な事を把握しており、毎朝の申し送りで日々の変化の確認に努めている。	/	/	/	/	
3 チームで行うアクセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人・家族の要望や直接の訴え・スタッフ会・申し送り等、本人視点で話し合いを行っている。	/	/	/	○	日々の支援の中で、常に職員は利用者一人ひとりを観察し、記録を残すよう努めている。把握した内容は、月1回スタッフ会やカンファレンス等を活用して職員間で話し合い、利用者本人の視点で生活の中にサービス内容が盛り込んでいくよう検討している。
	b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	月に1度のスタッフ会やカンファレンス又は、随時必要な時に検討出来ている。	/	/	/	/	
	c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスの話し合いをもとに課題の提案を行い検討。検討した内容を実践できていないところについて再検討するようしている。	/	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いいや意向を反映できている。スタッフ全員で話し合いを行い周知できるように努めている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人と話し何を求めるかを確認し、本人・家族の望む意見やアイデアを整理し、スタッフの意見も反映しながら作成している。	○	/	○	利用者一人ひとりの「らしさシート」と「こんなことできたらいいな」「やりたいこと」などの希望調査を参考にして、日々変わる利用者の思いのほか、家族の意見や職員のアイデアと意見を盛り込みながら、介護計画を作成している。利用者ごとの担当職員は1年ごとに交代し、マンネリ化ならないとともに、新たな気づきなども大切にすることとしている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人が使用していたものを持参していただく等環境に配慮しながら、看護師や理学療法士の協力を得て、福祉用具等の利用で本人のベースで過ごせる内容となっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容となっている。	△	ライン回線を使ったビデオ通話面会で家族の協力は盛り込まれている。地域行事の時は地域の顔見知りの方たちが席を用意してくれる等協力体制が取れている所もある。今年度はコロナ禍で祭りや行事は中止。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月スタッフ会を開催しケア方法について検討している。3ヶ月に1度モニタリングを行い内容の把握・理解に努めている。	/	/	○	介護計画を継いでいるファイルを、職員が見やすい場所に置くなど、いつでもサービス内容を確認できるように工夫している。介護計画の内容を共有し、利用者にとってサービスを提供する上で、「実際にふさわしい内容になっているかどうか」を職員間で思案しながら実践している。支援経過にすべての記録を残すことは困難な場合もあるが、職員間での申し送りを充実させて補完している。介護記録は他の職員が読んでも分かりやすいよう利用者の表情や身体状況のほか、発言したそのままの言葉やエピソードも記載されている。また、職員の気づきや工夫、アイデアは、内容に応じて経過観察する内容もあり、次回の計画作成に活かせるよう記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の様子を観察し、実践できたこと・できなかったことを記録し状況の確認はできているが結果が記録出来ていないこともある。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	記録は、発されたままの言葉で記録する様にしてる。表情の変化も記録に残し、読めばその時の状況が思い浮かぶ様な具体的な記録を残すように努めている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	申し送りやカンファレンスで話し合い、気付きや工夫は話合えているが記録に残せてないことがある。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のカンファレンスや3ヶ月に1度のモニタリングを行い必要に応じて随時の見直しができている。	/	/	◎	入所後の間もない利用者には、心身状態などを確認して毎月実施するカンファレンスの中で話し合い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月カンファレンスを行い現状確認ができる。	/	/	◎	通常時は、3ヶ月に1回モニタリングを実施している。訪問調査日に血尿が出た体調不良の利用者がおり、同法人の看護師と連携を取りながら、受診調整等の迅速な対応の様子を見ることができた。また、利用者の状態や受診結果に応じて、現状に即した介護計画に見直すこととしている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化がある時は利用者様・家族の意見・要望を聞きまた連携している機関のスタッフにも意見を聞くなどし現状に即した計画が作成できる。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的に緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。	/	/	◎	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	1つのテーブルを全員が囲み、どの位置からもお互いの表情が見れるようになっている。スタッフの意見交換や自分たちの意見の言い合えるような雰囲気ができている。	/	/	/	月1回スタッフ会とカンファレンスを実施している。緊急案件のある場合には、その場で協議を行い、即時対応するようにしている。参加できなかつた職員には協議内容を資料にして渡すなど、知らない職員がいないように伝達を徹底している。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全てのスタッフが参加できるように勤務表が出てから、希望休のない日を選び、スタッフに都合の良い日を聞いて会議日を決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	出席できなかつたスタッフにも会議の内容や資料を渡し周知できるよう努めている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	伝達事項の活用や申し送り表を工夫して、全員が共有できるような仕組みを作っている。	/	/	◎	日々の申し送りのほか、申し送り表の活用や会議資料のコピーを添えた会議録を回覧するなどの手順で、職員間の情報共有を図っている。また、確認後には、職員がサインをする仕組みがあり、伝達漏れがないよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り表とは別にメモ紙を追加し皆が把握できるまで申し送り表に貼り付ける様にしている。	/	/	○	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
(2)日々の支援									
9 利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レクの時間を活用しやりたい事を聞く様にしているが一人ひとり聞くことはできていない。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	日々の生活の中で、職員は利用者の思いがくみ取れるよう努めている。塗り絵や数合わせ、トランプなどのレクリエーションのほか、食事の準備や手伝い、洗濯物たたみなど、職員は利用者の可能な範囲で自己決定できる場を作っている。また、食事のリクエストメニューを取り入れたり、趣味のミシンを活用した雑巾やおしほり、マスク、足ふきマットなど裁縫して作成したりするなど、利用者が明るく満足できる時間を過ごせるよう支援している。
	b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	スタッフがすぐに口や手を出すのではなく、見守りや声掛けにて利用者様の気持ちや気分を大切にし、自己決定できるような支援に努めている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様一人一人の思いを傾聴し表情やしぐさなどから思いを読み取れるよう心掛けている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床・就寝・食事・排泄は利用者様のベースで行えている事が多いが、入浴は1番風呂と決めている方もおり、居室の清掃の兼ね合いでスタッフの都合を優先している事がある。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けは明るく笑顔で行う様に努め、利用者様の表情を観察し、言葉に傾聴し思いを引き出せるような雰囲気づくりを行っている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	普段からの声掛けで表情の変化や発せられる単語を聞き逃さないよう観察している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
10 一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	スタッフ会で人権や尊厳について話す機会を設けている。声掛けや、声の大きさ・トーンについてはその時に注意し合える関係作りに努め意識した声掛けを行っているが、全てのスタッフができるとは言いきれない。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	常に職員は、利用者が人生の先輩であることを念頭に置いて利用者のプライバシーにも気を配りながら、要望などを丁寧にくみ取っている。年齢を重ねて難聴になった利用者には、職員が耳元でゆっくり話をするなど分かりやすく伝える工夫をしていたが、現在はコロナ禍のため難しい場面も多い。常にマスク着用していることもあり、職員の口の動きが見えず言葉が伝わりにくい点もあるが、筆談を活用しながらカバーする工夫をしている。
	b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	寄り添い、できるだけ一人一人に合わせた声掛けを行っている。耳もとでそっとぶやく様に伝えると伝わりやすい。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	まずは声掛けを行い、扉は必ず閉めている。また、入浴は個浴でゆっくりとは入浴できるようになっている。タオルを使用するなど配慮している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノックやインターホンを鳴らし入室している。また、入室する際には必ず本人に内容を伝え納得して頂くよう配慮している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	公務を問わず情報の取り扱いには気を付けています。また、申し送り表等は必ず伏せておくように徹底している。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
11 ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理の取り分けや配膳・洗濯などスタッフと一緒に行い作業が終わったら必ずお礼を伝える等、感謝の気持ちを言葉でも表すようにし、支え合う者同士の関係性が築けている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	利用者同士のトラブルがあった場合には、ムードメーカー的な利用者が間を取り持ってくれている。職員は利用者の力も借りながら、お互いが居心地よく過ごせるよう対応している。
	b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士の支え合いを意識し、洗濯たたみ・食事の注ぎ分け・配膳等、得意な分野を積極的にやって頂けるような声掛けを行っている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	気の合う方同士が集まって話をされていることが多い。トラブルになった時は、一人一人の気持ちを考えお互いが嫌な気持ちにならない様工夫した声かけを行う等、居心地の良い場所作りに努めている。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	
	d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を感じさせないようにしている。	○	スタッフが間に入り不安にならない様に話を聞き、なぜトラブルになったのかを本人と一緒に考える時もある。話すことで気持ちの整理が付き、トラブルが解消される事がある。	/ / /	/ / /	/ / /	/ / /	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	らしさシートを活用したり、情報はスタッフ間で共有している。本人や家族から話しを聞き把握に努めているが把握しきれていない所もある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	今まで行っていた地域での役割や馴染みの場所等会話の中から把握できることもあるが出来てない事もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所をドライブしたり、地域行事に参加する等馴染みの場所に岡かけている。今年度はコロナ禍で外出中止。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつも気軽に訪ね、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	一人一人に合った居室環境を整えたり、家族や友人が会いに来られた時は、お茶を出したり居心地よく過ごせるように配慮している。今年はコロナ禍で希望者には居室の窓越し面会している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	定期的に法人内のレクに参加する為外出している。天気の良い日は外でレクを行ったり、散歩をしている。毎日外出したい方はスタッフが付き添い散歩するようしているが一人一人の希望には添っていない。今年度はコロナ禍で合同レクや外出中止。	△	x	△	日頃から事業所周辺を散歩したり、定期的に地域行事や遠足行事など外出したりできるよう支援している。現在はコロナ禍のため、日常的に戸外に出て過ごすことは困難であるが、敷地内にある菜園で野菜を収穫したり、花壇の手入れなどをしたりすることで、利用者の気分転換ができるよう努めている。現在、重度の利用者はいないが、以前は玄関先に出て花壇を眺めるなど、外気浴や気分転換もできていた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	x	近所の障害者サークル利用者の運動とGHの外出支援を兼ねた方策を関係者で模索している。今年度はコロナ禍で計画は中断している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	回数は少ないが天気の良い日は玄関先で季節を感じて頂いている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	年に2回の遠足では家族参加で希望の場所に行けるよう計画を立てている。地域行事では席を設けて下さる等協力が得られている。今年度はコロナ禍で遠足や祭り・行事は中止。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の変化を観察し状態の変化に気付ける様にしたり、スタッフ会で一人一人のケア方法について話し合っている。	/	/	/	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	できることはご自分のペースで行って頂く等、本人のペースを大切にしながら、生活の中にリハビリをとり入れ維持・向上に努めている。	/	/	/	敷地内にある菜園や花壇を活用して、利用者と一緒に野菜や花などを育てている。食事の際には職員が見守りながら、利用者が自主的に食事の準備や片付けなどができるよう支援している。また、事業所内の図書館として、利用者に本の貸し出しも行っていたが、現在はコロナ禍のため中止をしている。
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行こうようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	得意分野を積極的に行って頂いている。家事等は口を出さずに人数分つぎ分けで頂く等考えながら作業して頂いたり、気分や体調によって難しい時はスタッフも一緒に行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	得意分野や習慣を大切にしている。らしさシートやご家族様から教えて頂いている。	/	/	/	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	「できること」「やりたいこと」を大切に時間がかかってもご自分のペースで行って頂く様にしている。	○	○	○	趣味の園芸を生かし、花の植付けや水やり、居室に花を活けるなどに取り組む利用者もあり、職員は持てる力を活かせるよう支援している。食事準備の際には、自主的に利用者が主食や副菜などの盛り付け、配膳や下膳の手伝いを行うなど、生き生きとした利用者の姿を確認することができた。
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事に参加し、顔見知りの方との会話を楽しめている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みで服を選んでいただけたり、イベント時にはオシャレをして出かける様に努めている。	/	/	/	男性の利用者は自ら洗面台で髪の手入れを行い、職員が仕上げを手伝うこともある。食べこぼしや口のまわりに汚れが見られれば、職員がさりげなく拭き取っている。利用者の好みの衣服や靴は、家族に協力して用意してもらっている。また、看取りの介護の際には、利用者が好んでいた衣服を孫が用意し、最期まで本人らしく過ごすことにつながった事例もある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	散髪は地域のサロンが毎月1回来てくれている。ご自分の意見を伝えカットして頂けている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	表情や言動等で本人の思いに添うように努めているが、スタッフの意向が強く出る時もある。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時の服は一緒に選んだりしている。本人らしいオシャレができる様に努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	毎朝の整容やその都度衣類の乱れや汚れ等気付いた時にはさりげなく着替えるよう促している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	望む方には行きつけの美容院へ連絡し予約を取っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	無理のない程度で顔を拭いたりひげをそっている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事は生きる力につながる事を理解し、献立の説明や、食事の感想をたずねたり、楽しみながら食事ができる様な雰囲気を大切にしている。	/	/	/	法人の管理栄養士の献立を立て、共同調理場で調理された食材が事業所に届けられ、利用者と一緒に楽しみながら盛り付けや後片付けをしている。利用者の苦手な食材がある場合には、事前に変更する対応をしている。リクエストの献立も取り入れ、チキンライスやピザなどは利用者に人気がある。隣接する看護小規模多機能居宅介護事業所には、手作りおやつ担当を兼ねている職員があり、協力してもらしながら利用者と一緒に盛り付けをしている。茶碗や湯のみ、箸等の食器類は利用者に合わせた使いやすいものを使用している。通常、職員は利用者の食事介助やサポートを優先しているが、イベント食の時には利用者と同じ食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。全介助が必要な利用者も、日中には共用空間に出て過ごしており、料理の匂いや音を感じることもできている。また、定期的に管理栄養士から食事に関するアドバイスをもらい、利用者の食生活に役立てている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	買い物や食事の調理はできていないが、干し柿作り等は行っている。また、食事の準備から注ぎ分け・後片付けは利用者様とともにに行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事の調理は行えていないが、盛り付けや後片付けは個々の握力や視力等の把握を行い、うまく注ぎ分ける事の出来る食材を注ぎ分けて頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーはアセメントの時点で必ず尋ねるようにしている。利用者様に直接好き嫌いをたずねたり、食べ残しを確認し把握に努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	お餅が苦手な利用者様にはあらかじめ確認し、酢飯にするか白米にするか選べるように努めている。献立は管理栄養士が行っているが旬の食材が使用されていたら、リクエスト料理で旬の食材を取り入れている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	利用者様に盛り付けは行って頂いているが、スタッフの声掛けや、一部手伝うことで美味しいように努めている。また、キサミはその時の食事状態に合わせて大きさを変えている。おなかの調子や、体調が良い時はお粥にするなどし対応している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	事業所で用意しているが、個人の物を使用している方もいる。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べながら感想をたずねたり見守りながら一人一人のペースを大切にしている。また、食べ方に混乱している場合はスタッフと一緒に食べる事でペースをつかめる時もある為、すぐに食事介助するのではなく、まずは声掛けやしぐさで自力摂取を促すように努めている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通じて利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	介助が必要な方に対してはメニューを言葉で伝えたり、五感に働きかける様に努めている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	○	食事摂取量の把握や、必要な方に対しては水分摂取量の把握も行っている。管理栄養士と相談しながら栄養バランスを考えている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食欲がない方に対しては補食で好物を摂取しながら栄養のバランスをとったり、水分摂取が必要な方に対しては数日間の水分摂取状況や摂取した時間帯が一日で把握できるように個別に記録している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	食事は管理栄養士が管理しているが、リクエスト料理の時はスタッフで話し合い、調理方法を決め管理栄養士にアドバイスしてもらっている。本日のメニューの評価を記録し栄養士に届けている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材を取り分ける時等必ずグローブを着用している。又、調理器具や食器には使用直前にセーフコールを使用し衛生面に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解できている。ご自分のケアが難しい方に対しては磨き残しが無いかのチェックを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助が必要な方の口腔内の把握や、全員の義歯の把握は出来ているが、舌の状態は把握できていない方もいる。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	週に2回歯科衛生士が口腔内のチェックを行い指導を受けている。又、口腔内トラブルや口腔ケアの仕方については随時相談出来る。	/	/	/	週2回歯科衛生士の訪問があり、定期的に職員と一緒に利用者一人ひとりの口腔内の状態を確認し、記録に残している。朝・昼・夕の食後に、利用者は歯磨きを欠かすことなく続けており、おやつの後にもすることもある。利用者自身で、できる部分の歯磨きをしてもらい、できない部分の介助や仕上げを職員が手伝っている。
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夕食後に洗浄液に浸け対応している。手入れが難しい方や汚れが残っている場合は介助にて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来る事はご自分で行って頂き、手入れが必要な方に対しては一部介助を行っている。ケア時に出血している場合や炎症等は全員が把握できるよう記録や申し送りを行い、随時歯科衛生士に伝えるようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診などの対応を行っている。	◎	変化を発見した時は歯科衛生士と連携をはかり歯科受診へ繋げるよう対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	紙パンツやオムツが与える皮膚への影響など、スタッフ会にて話し合いを行い皆で共有している。定期的、又は随時にトイレ誘導を行いなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	/	/	/	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	日々の生活の中で、食事量やトイレの回数等の観察を行い話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	シグナルの観察や排泄チェック表を記入しパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	なるべくトイレでの排泄を促している。パットは尿量を踏まえ検討している。又、下剤を内服した場合は本人に説明し納得していただきうえで紙パンツに一時的に交換するなど対応している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	下剤を使用しているが下剤の量や内服のタイミング等は本人と相談しながら決めている。また、便秘気味の方に対しては食物繊維の多い物や水分を多めに取っていただく等取り組んでいる。	/	/	/	トイレで利用者が自立した排泄できることを基本目標として支援している。職員はトイレ誘導や声かけ、介助などを行っている。おむつメーカーに研修の実施協力をしてもらい、職員は適正なおむつの使用方法などを学び、利用者の必要に応じた排泄用品の選択や使用を心がけている。また、家族に対しても、職員は利用者のおむつ使用に至った経過をきちんと説明できている。
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるように誘導や声掛けを行っている。また、表情や行動も気にかけながら兆候を見逃さないように観察を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族の意見を取り入れながらパットの種類やリハビリパンツ使用のタイミングを検討している。又、スタッフ会で排泄状況について話し合う機会を設けている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	下剤内服時は本人と話し合い、リハビリパンツを使用する事もある。体調不良時等でその都度使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘がちな方は散歩を促したり、水分や乳製品を多めに摂取して腹圧をかける等取り組んでいるが、3日排便なければ下剤を使用する事が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週3回の入浴時間や温度はその都度確認しながら利用者様に合わせている。入浴を拒否された場合は理由をきき入浴日を変更しているが入浴の曜日はスタッフが決めている。	◎	/	○	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	浴室は個浴で個々のペースで入浴できている。又、浴槽につかっている時は寄り添い話しやすい空間を作りだし、昔話や思いを聞くように努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はなるべく任せるようにしている。手が届きにくい所はさりげなくフォローしながら本人の力を活かせている。	/	/	/	利用者は、週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に合わせた支援を行うとともに、湯の温度や入浴時間などの希望にも応じている。入浴時には、至福の癒され笑顔を見てくれる利用者もいる。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方に対しては理由を聞き解決できるように努めたり、曜日を変更している。また、時間帯に関しては遅めに入りたい方や早めに入りたい方の希望を聞くようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝食後にバイタル測定を実施している。又、バイタルに表れない表情の変化や会話からも体調の変化を把握できるように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をチェックしたり、毎日の申し送りで把握できるようになっている。	/	/	/	職員は体操や室内の歩行を取り入れるなど、日中の活動量を増やしたり、昼寝時間を短くしたりするなどの工夫をしながら、利用者が安眠できるよう努めている。入所前から睡眠導入剤等を服用している利用者もいるが、担当医のアドバイスをもらいながら、できるだけ減薬や服薬の中止ができるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	個々の生活を観察し、昼寝時間の調整や適度な運動・活動を取り入れている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	極力睡眠導入剤にたよらず、散歩や体操を積極的に行ったり、考えるレクを行っている。又、話を聞く事で安心感を持っていただき不安を解消できるような支援を努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個人の居室で休みたい時に休んで頂いている。又、フロアで休む場合もソファーやリラクニングで休める環境を整えている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様から要望があった時はその都度支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	決めつけはせず、電話で話したいと言われた時は本人が気持を伝えた後、家族が理解しやすいようにスタッフが代弁する事もある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	何時でも電話ができるようになっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるよう工夫している。	○	荷物が届いた時は必ず本人の声でご家族様に届いた事や近況を伝えて頂いている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話があった時は「また何時でも掛けて来て下さい」とお伝えし電話をかけてきやすい様声をかけている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	入居前の生活の中で金銭管理を行ってきていた事を理解し、ご自分がお金を持つ事で安心感につながる事を理解してきている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	本人が買い物に行く事がほとんどないが、欲しい物を紙に書き出して頂き、購入後本人からお金をいただくようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	慣れ親しんだ店に理解や協力を働きかけを行えていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族様に対して、事前に、混乱したり、失くす可能性を含めて伝えている。本人が希望したり、安心できるのなら財布をお渡しできるよう、理解していただくように努めている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人・家族と相談し所持方法や使い方を決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理办法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理ができず、家族が遠方に住まわれていたり、共働きの方は、ご家族様と話し合い、希望の金額を預かっている。管理者が金庫で保管し、使用した日付や内容を記入している。レシートは定期的にまとめて家族に確認していただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況に応じて対応できるように随時スタッフ間で話し合いを行っている。利用者様や家族の要望に応えられるよう努めている。	◎	○	事業所では利用者や家族の意向や希望を聞き、可能な限り柔軟に幅広く対応できるよう努めている。	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽にに入る玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関に鉢植えやインターホンを設置したり、認知症センター及び認知症の相談場所であるポスターを掲示し、誰もが気軽に出入りできるような務めています。	◎	○	◎	地域住民から花や植木などを提供していただき、菜園や鉢植え等で育てており、利用者や来訪者は季節折々の草花等で季節を感じることができます。広い駐車場の中央付近には、昔からの井戸やポンプが設置されたいた名残があり、天気の良い日には利用者がくつろぐ大切な場所にも活用されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしており、必要なものしか置いていない穀風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐのような設えになっていないか等。)	○	共有空間には観葉植物や頂き物のつぼを置いたり、利用者様と作り上げた壁画を季節ごとに飾っている。又、利用者様が自宅で使用していた物をフロアに置いたり、ソファーにはタオルケットを置くなどしくつろぎやすく、居心地の良い空間作りに努めている。	○	○	◎	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は午前午後と2回行っている。テレビの音等はその都度利用者様に尋ねながら調節したり光はカーテンやすだれで調節している。	／	／	○	事業所には中庭を囲むような形で共用空間があり、例年文化祭に出品する大作の壁飾りが飾られている。座り心地の良いソファが各所に置かれ、利用者は好みの場所でゆったりと座りながらくつろいでいる。事業所内に差し込む採光の調節はよしらずやブラインドで行い、時折窓や戸を開けて換気をしている。事業所内から見る景色は、四季を通じて桜などの草木や花を楽しむことができ、利用者は心癒されている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じながら壁画を作り飾っている。中庭には紅葉の木が植えてあり、紅葉や落ち葉が散るさまを窓越しに眺め季節を感じられている。	／	／	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	廊下にソファーを設置しそこが集いの場所になっている。又、窓のそばに一人掛けのソファーを置く事で日光浴ができ思い思いの時間を過ごせている。	／	／	／	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室は二重扉になっておりトイレは各居室にあり、入り口から見えない位置に設置されている。	／	／	／	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人の使い慣れたものを持ってきていたり、なじみの物を飾ったり自宅で生活していた時と変わらない空間づくりが出来るようご家族様とも相談し、又、安全に過ごせるよう家具の配置を考えている。	○	◎		全ての居室にはトイレと換気扇が設置され、とても広くゆったりとしている。換気や清掃も行き届き、清潔感がある。利用者自身が育てた花を居室に活けたり、馴染みの物を持ち込んだりするなど、個性豊かな居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手の届く所に箸を置き、ご自分のベースで食事の準備に取り掛かれるようにしたり、他の利用者様の手指消毒を行っていただけるよう消毒液もすぐ手の届く所に置いている。	／	／	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	刃物を持ち込まれている方に対しては家族・スタッフ間で話合い、いったん預かり、必要な時に使用していただいている方もいる。	／	／	／	利用者が居室やトイレなどの場所を迷わないように、事業所内には分かりやすく名前や写真等の表示をしている。利用者の安全に考慮し、電源コードなどのつまづきそうな危険な物は足元に置かない工夫をしている。
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(はうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ボット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	以前から取っていた新聞を継続している方や、居室にボットや急須等を置き何時でもホッとした時間を持つようしたり、居室には自宅から持て来られたはうきを置き掃除されたり、雑誌はフロアの誰でも手に取れる所に置いている。	／	／	／	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	施錠することに対してスタッフ間で話し合い、施錠はしていない。自由に入り出しができるような開放感のある空間作りを行っている。利用者様自らが施錠される場合は施錠していただき、合意鍵を使用している。合意鍵使用に対しては説明し承を得るようにしている。	○	○	○	職員は施錠することによる利用者の弊害をしっかりと理解できている。事業所では鍵をかけない生活を通して、利用者の暮らしを支えている。夜間等に居室を施錠している利用者もいるが、見守り時など合鍵での入室は事前に説明して対応できている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	歩行状態の観察が必要な方に対してご家族に説明し、スタッフがさりげなく付き添いながら自由に散歩できる環境を整えるよう努めている。	／	／	／	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	同法人内の地域密着型施設等が駐車場及び門扉を取り廻すように配置され、一人で外出された場合に声をかけていただきたり、事業所に連絡できる体制作りを行っている。	／	／	／	

愛媛県グループホームはなみづき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	<input type="radio"/>	らしさシートや、アセスメントシートで把握している。スタッフ間のバラツキを防ぐため、利用者担当を1年間づつで交代するようしています。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	<input type="radio"/>	毎日のバイタル測定だけではなく、日々の関わりの中で表情や話し方等のちょっとした変化も気付けるように観察を行い、記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	<input type="radio"/>	少しの変化や気になる事でも隨時看護師に報告し、相談をし、かかりつけ医にも気軽に相談できる関係が出来ている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	<input type="radio"/>	本人・家族が希望する医療機関に受診できている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<input type="radio"/>	本人・家族の希望を大切にかかりつけ医と相談しながら医師と事業所の関係が築けている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	<input type="radio"/>	通院前には必ず家族に連絡を取り、付き添いが可能か確認し、事業所が付き添う時には受診結果や医師からの言葉をありのままに報告するよう努めている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	<input type="radio"/>	本人の生活歴や注意事項を記入している利用者情報を提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	<input type="radio"/>	入院先の地域連携室と連絡を取り合いながら状況の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	<input type="radio"/>	入院中地域連携室のスタッフと随時連絡を取れる体制作りに努めたり、かかりつけ医による医師同士の関係を築いて下さっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	<input type="radio"/>	同法人内で医療連携を図っており、随時相談できる状態にある。隣接する看護小規模多機能の看護師には夜間の出来事を用紙に記入し毎朝確認できるような体制をとっている。又、夜間は老人保健施設の看護師に連絡し緊急時に協力してもらっている。主任や管理者が直接かかりつけ医に連絡を取り支持を仰ぐ場合もある。	/	/	/	
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	<input type="radio"/>	24時間相談できる体制になっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	<input type="radio"/>	日中は随時どんな小さな変化でも報告し、夜間も変化があれば用紙に記入し適切に対応できる体制作りに努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	<input type="triangle"/>	処方箋のファイルを作成し何時でも確認でき、随時確認を行う習慣は付いているが、スタッフが全てを理解できているとは言えない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	<input type="triangle"/>	薬の袋に色分けしたマーカーで線を引き、朝・昼・夕・タが一目でわかるようになっている。又、与薬時には名前を呼び本人である事を確かめ誤薬防止に努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	<input type="triangle"/>	副作用による活動抑制や周辺症状の誘発等意識はしているが日常的に確認を行っているとは言えない。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	<input type="radio"/>	バイタル測定時の数値や状態に変化が起った時は記録し、随時スタッフ間で話し合い、看護師に相談するような体制を整えている。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に『重度化対応・終末期ケア対応指針』を用いてご家族様に説明を行っている。又、状態の変化に伴いご家族様と意向の確認を行えている。	/	/	/	
		b	重度化・終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化・終末期のあり方は段階ごとにスタッフ・看護師で話し合い、かかりつけ医に伝えそこで更に話し合いを行い情報や方針の共有を図っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	月に1度のスタッフ会やその都度スタッフから話を聞き、何気ない会話の中からもスタッフの思いや力量を把握するよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医師の意見を聞き、看護師・管理者・ケアマネジャーが終末期を迎えた利用者様の家族に説明し、ご家族からの質問等にお応えできるよう努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	随時スタッフで今後の変化について話し合い、看護師や医師に状況を伝えながら急変時にも対応できるよう連携を図っている。家族にも回数を増やし連絡をとったり、面会を増やして状態の把握をして頂いている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	スタッフに話しかけやすい環境作りに努め家族の言葉に寄り添い傾聴するよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癡、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人内で感染委員会が勉強会を行い、各部署で感染委員が主体となり、勉強会を開催し、更に細かく発生時の対応について決めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	「動作1)消毒等、手指消毒の徹底を行うようスタッフ・利用者様に促している。各居室や手すりに処理品を備え発生時に速やかに処理が出来る環境を整えているが、回数を重ねての処理対応の訓練は出来ていない。コロナ禍対策としてゾーニングも設定しています。」	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	愛媛県や今治市等でコロナ等感染発生状況を入手し、併せて対策に万全を期している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に隨時対応している。	◎	行政から情報を収集し、理事長である医師の判断のもと面会や外出制限に協力していただいている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	スタッフは出勤時に検温、うがいおよび手洗いを徹底している。来客者等に張り紙や声掛けにて検温、うがいや手指消毒の協力を促している。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみすき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
II 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には、利用者様を交えて家族とスタッフで会話したり、日頃の様子をお伝えするように努めている。	/	/	/	家族と職員の関係は良好で、何かあれば電話で頻繁に報告するほか、訪問時には利用者の状況を伝え、家族は安心できている。毎月の請求書送付時には、事業所の写真入りの事業所便りを同封し、利用者の様子を伝える工夫をしている。ここ一年間はコロナ禍のため、家族が参加できるイベントや運営推進会議などは従来の形で実施できていないが、家族へ電話や来訪時に気持ちを伝え、管理者は「家族との良好な関係づくりにつながった」と感じている。また、コロナ禍においても、ガラス越しでの面会やリモート機能を活用した面会対応もできている。今後は、事業所便りを活用して、事業所での職員異動や入退職などの情報についても掲載を予定している。また、管理者はコロナ禍の終息後に、家族参加のイベントなどが再開できるようになれば、以前と同じようにお知らせや家族の協力を仰ぐことを予定している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	個室になっており、面会時は各居室で談話される事が多い。フロアで談話される時はお茶やコーヒー等お出しし心地よい空間作りに努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	遠足やイベント・運営推進会等家族参加の機会を作っているが参加される家族は決まっている。今年度はコロナ禍で実施できず。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	希望者には家族とのライン回線を使った動画を配信している。月刊グループホームはなみすきを毎月お送りしている。行事の前や贈り物があった場合には必ず電話をしている。その時に直接本人の声を聞いていただけたり、近況報告や状態をお伝えしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の希望等記入できる用紙を2ヶ月に1度郵送し記入して頂いている。ご家族様がしたい事に向き合い説明を行うよう努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていくように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族が本人に対する思いを大切にしている。認知症への理解が難しい家族に対しては主治医からも説明を行って頂いている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事やスタッフの異動・退職等は月刊誌や運営推進会議で報告したり、面会に来られた時にお伝えするようにしている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	遠足等の行事で家族交流の機会を設けているが、参加される家族も限られており、参加人数も年々減ってきているのが現状。今年度はコロナ禍で実施できず。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクについて前もってスタッフ間で話し合い、家族にお伝えし変わらない生活が送れる対策をとるよう努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が意見や希望を言いやすいように面会時に声をかけたり、相談しやすいような声掛けを行っている。発熱等体調不良の場合は、体調が回復するまで状態を伝えるようにしている。	/		○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時・内容に変更があった場合は説明を行い納得を得られている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいい退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約書に基づき利用者様の状況をふまえ説明している。本人・家族の納得が得られている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時・料金改定時には文書で示し具体的に説明し同意を得ている。同意書・証明書を作り印鑑を頂き保管している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
III. 地域との支え合い									
39 地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域: 事業所が所在する市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	<input type="radio"/>	民生委員や自治会長や老人クラブ会長等のご理解により開設し、運営推進委員にも就任している。	/◎/				
	b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らしが続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	<input type="radio"/>	地域の方にあれば必ず挨拶は行っている。地域行事には積極的に参加し顔見知りの関係を築いたり利用者様と地域の方の顔なじみの関係を大切にしている。	/○/○				
	c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	<input type="triangle"/>	昔から支援して下さっている地域の方は現在も変わらず関わってくれているが増えたとは言えない。	/ / /				
	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	<input type="triangle"/>	近所の方が気軽に立ち寄ってくれているが、特定の利用者様のみの事が多い。	/ / /				
	e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	<input type="triangle"/>	気軽に声は掛け合い会話をするが、立ち寄ったりお付き合いが出来るほどではない。	/ / /				
	f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれる働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	<input type="radio"/>	月祭り等のイベントではボランティアの協力のもとバザーを行っている。又月に1度のペースでボランティアが踊りや歌の出し物を披露して下さる。	/ / /				
	g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	<input type="radio"/>	春市や虫送り秋祭りなど、地域の伝統行事に積極的に参加している。市主催の文化祭等に作品を展示し地域のみなさんに見ていただく機会を設けている。今年度はコロナ禍で実施できず。	/ / /				
	h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を広げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店・理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	<input type="radio"/>	地域の理美容店に散髪をお願いし、協力をして頂いている。又、月祭り等のポスターをコンビニや病院に貼らせてもらっている。近所の障害者サークルとの共同作業や外出を計画していたが、今年度はコロナ禍で実施できず。	/ / /				
40 運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	<input type="triangle"/>	毎回案内を出し出席を促している。地域の方の参加はあるが、家族の参加が見られない。今年度はコロナ禍で書面開催。	/○/○				
	b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	<input type="radio"/>	日常生活の写真をパワーポイントで見やすく写し出し説明できている。評価への取り組みも内容を伝え説明できている。	/ / /	◎			
	c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	<input type="radio"/>	会議の終わりに意見交換の場を設け、事業所の取り組みについての感想や意見が気軽に言い合えるような雰囲気作りに努めている。今年度はコロナ禍で書面開催。	/○/○	◎			
	d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	<input type="radio"/>	会議の終わり次回の開催日を決めるようにしている。いつもは第2木曜日と決まっているが、参加される方の都合で前後する事もある。今年度はコロナ禍で書面開催。	/○/ /	◎			
	e	運営推進会議の議事録を公表している。	<input type="radio"/>	玄関入って直ぐの所に誰でも閲覧できるようにしている。	/ / /				

愛媛県グループホームはなみづき

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	その人らしさを大切に、持てる力に寄り添いながら日常的に取り組んでいるが全てのスタッフが出来ているとは言えない。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は理解しやすい言葉を持ち、誰もが見やすい位置に掲げている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者: 基本的には運営している法人の 代表者であり、理事長や 代表取締役が該当する が、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をそ の法人の地域密着型 サービス部門の代表者と して扱うのは合理的では ないと判断される場合、當 該部門の責任者などを代 表者として差し支えない。 したがって、指定申請書 に記載する代表者と異なる ことはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	グループホーム交流会の年間スケジュールや地域の研修会を把握し、スタッフにあった研修が受けれるよう努めている。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修会を行ったスタッフはその月、又は翌月に自分の行った研修内容をまとめ、スタッフ会で再度スタッフに報告するようにしている。今年度はコロナ禍で研修会を開催なし。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個々の働きを見極め褒め活かす声掛けを行っている。スタッフの得意分野を活かし向上心を持ちやりがいのある業務に繋げ、働きやすい職場環境にするよう努めている。人手不足で個人差があることは否めない。来年度は外国人実習生を迎える。	/	/	/	代表者である法人の事務長は自ら職員一人ひとりに話しかけ、職場内の様子を聞いて意見を取り入れたり、きちんと年賀状を送ったりするなど、働きやすい職場づくりと職員のモチベーションアップにも努めている。また、職員は外部研修に参加することもでき、参加した職員は、翌月のスタッフ会の中で、学んだ内容の伝達研修ができる。
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修会に参加し同業者と交流する機会を作り、スタッフが意識向上できるよう努めている。今年度はコロナ禍で研修会を開催なし。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	面談を行い話を聞いたり、スタッフ全員で食事会に行きストレスの軽減を図っているが、全てのスタッフのストレス軽減に繋がっているとは言えない。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	勉強会にて全スタッフが理解できるように努めている。意識してケアに従事しているが、不敵な声掛けや態度になりそうな場合は、その場で誰でも注意出来る関係を作っている。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	スタッフ会や随時スタッフから話を聞き、改善できる事は迅速に対応するように心がけている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	包括支援センターのスタッフを招いて虐待について勉強会を行った。そこで行為を発見した場合の対応方法や手順について学んだ。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	△	外部講師を招いて勉強会を実施し、虐待防止などを職員は学んでいる。職員の不適切な言葉づかいなどが確認されたため、スタッフ会で話し合うほか、管理者は再発防止に向けて職員用のトイレに啓発ポスターを貼り、「職員の意識づけに役立てていきたい」と考えている。それ以後、常に職員は意識して緊張感を持ちながら、利用者に接することができるよう努めている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフの家庭的事情等考慮し勤務表を作成している。出来る限り話を聞きケアに影響しないよう注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会やスタッフ会にて全スタッフが理解できるように努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	現在行っているケアを振り返り身体拘束に当たるかもしれない場面をスタッフ会で話し合っている。残念なことに不適切な言動事例が発生したので、高齢者虐待と身体拘束について、スタッフ会で再度学習し直しています。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在、ご家族様からの要望はない。	/	/	/	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	会議や研修会で成年後見制度について学習している。管理者は任意後見人となっている。利用さんの中にも任意後見契約されている方が2名いる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点などを含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者は成年後見制度について、パンフレットを用いたりわかりやすく説明が出来る。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	他にも子供がいなく制度を利用されるべき人がいるため、関連機関との連絡や相談は出来ている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	勉強会を開催し状態に合わせた対応を確認している。事故発生時の緊急連絡網は作成し一目でわかる所に貼っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。	○	研修会に参加し学んだ事を資料を交えてスタッフ会で実施したり、随時看護師から学んでいるが、定期的に開催は出来ていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	毎月スタッフ会にて事故・ヒヤリハット報告書をもとにスタッフ間で対策案を再確認し、再発防止に努めている。ヒヤリがあれば報告・記録し、事故へと繋がらないように検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のちょっとした変化にも気付く事が出来るよう観察し、毎月のスタッフ会や随時、現在の現状を踏まえ検討し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しているが、スタッフ全員が理解できているとは言えない。苦情があった場合の対応はスタッフ間で話し合っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情処理委員会を設置しており、担当者に繋ぐ手順についてはある程度理解できている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は法人内共通の思いやりシートを作成し委員会を開催したり会議での話し合いを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご意見箱を設定しているが成果がない。管理者直行使を各自に配布し意見を求めた。日常の何気ない会話の中での要望や意見を聞き逃さないように努めている。	/	/	○	日頃から職員は利用者のことをよく観察し、常に傾聴できる姿勢で意見を聞き出せるよう努めている。家族と職員の関係は良好で、届け物などの来訪時やリモート機能を活用した面会時などに意見を聞き取っている。職員は管理者と良好な信頼関係が築かれていることもあって話しやすく、じっくりと話を聞いて対応してくれている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	ご意見箱を設置しているが殆ど利用されていない。重要事項説明書に法人・事業所の相談窓口を提示している。	(◎)	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に閲覧できるよう情報提供行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	日頃からスタッフと会話し意見があれば聞き取り等行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聞く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に1~2回面接を行っている。また、日頃からスタッフが管理者に直接意見や提案が出来るような関係作りに努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホームはなみづき

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回ではあるが自己評価に取り組めている。	/	/	/	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回で4回の評価を通して課題はほぼ明らかになってきている。今後の学習を重ね意識統一を図りたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	災害時の避難場所の指定を受けるよう取り組んでる。	/	/	/	運営推進会議の中で、外部評価の結果や目標達成計画を報告している。また、管理者は家族にモニターの問い合わせをしているが、特に主な意見を得ることはできていない。また、家族のアンケート結果からも、家族は「事業所でのサービス提供は十分である」と感じている。
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族や運営推進会議に、目標達成計画を報告を行っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	経過報告のみとなっている。今年度はコロナ禍で月祭りやイベント開催なし。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成して、玄関に備えている。	/	/	/	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間・夜間帯を想定したマニュアルを作成している。	/	/	/	
		d	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回避難訓練を実施しており、避難経路や消火設備の点検を行っている。	/	/	/	年数回、消防署による火災報知機の点検や消火器の使用方法などを含む避難訓練を実施している。現在はコロナ禍のため、地域住民を巻き込んだ訓練などは実施することができない。近隣には、法人の介護老人保健施設やデイサービスなどがあり、災害発生時の協力体制は整っている。また、今後の訓練には、地元の消防団に参加協力を得ることを考えている。
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍のため地域を巻き込んだ消防訓練は出来ていないが、関連施設間の共同訓練や連絡体制は確立している。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町・自治会・消防・警察・医療機関・福祉施設・他事業所等)	○	毎年北浦地区の自治会防災訓練に管理者が参加している。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向け情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	玄関に認知症の相談窓口のポスター掲載している。広報活動・認知症についての勉強会・スタッフ全員が認知症サポーター育成研修に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	利用者様の家族へ対応は出来ている。入所申し込み時の聞き取りにアドバイスする程度で、地域の高齢者やその家族等への支援は十分に行えていない。	/	○	○	法人・事業所として相談支援できることを地域住民は理解しており、相談できる準備が整っている。現在はコロナ禍のため、様々な地域行事やイベント、会議の開催はできていないが、日頃から市担当課や地域包括支援センターなどと連携が密に取れている。コロナ禍が落ち着いた際には、中学生の職場体験や専門学校の実習の受け入れ、会議等の開催を即座に再開できる準備を整えている。また、災害発生時の地域の福祉避難所にも指定されており、地域に頼られるケア拠点となっている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	福祉難所として今治市より指定をうけました。今年度はコロナ禍で月祭りやイベント開催なし。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	専門学校や中学生等のインターンシップ等で受け入れを行っている。今年度はコロナ禍で受け入れなし。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事やイベント活動に参加し各機関と連携を図るように努めている。今年度はコロナ禍で祭りやイベント開催なし。	/	/	○	